

新しい基準！

在宅勤務のすべて

第1回 仕事は自宅で！在宅勤務のススメ

株式会社コンフォダブル・ライフ・コンサルティング 代表取締役 宮代 勉

URL <http://c-l-c.nagoya>
E-mail info@c-l-c.nagoya

新連載の「新しい基準！在宅勤務のすべて」では、会社の仕事を自宅で行なう「在宅勤務」のノウハウを伝授します。企業が在宅勤務の制度を導入するにあたり、最初に考えなければならぬ重要な項目を全5回にわたり詳細に解説します。

筆者の7年間に及ぶ在宅勤務での様々な経験を交えながら、テーマに沿ってお話しさせて頂きますので、本連載を、これから在宅勤務の導入を検討される企業の有意義な情報としてお役立てください。

本当に会社でない仕事はできないのか？

基本的にビジネスパーソンは、会社に通勤して仕事をし、仕事を終えたら帰宅することを繰り返しています。それは「会社で仕事をする」ことが大前提となっているからに他なりません。自宅で仕事をする選択肢などあり得なかったもので、それが当たり前、という固定概念が実情でしょう。

また、「上司より先に会社し、上司より先に退社しない」このような日本企業特有の習慣もあり、在宅勤務の利用は個人評価にも影響する……？という不安もあり、仮

に、在宅勤務の選択肢があったとしても遠慮や敬遠をしてしまうのではないのでしょうか。

しかし、世代が変わり、時代が変わり、社会が変わり、仕事への価値観が変わった現代では「働き方の多様性」が求められています。会社でないときけない仕事は今までも通り存在しますが、会社に行かなくても自宅でできる仕事があることも事実です。

そろそろ、「仕事＝会社であるもの」という固定概念を取り除いてもいいと思います。ちなみに、本稿は自宅で執筆していますが、この勤務形態は執筆業に限ったことではなく他業種でも同じです。しかし、在宅勤務と聞くと、

- ・上司が見ていないから手を抜いても分らない、すると仕事の効率や質は落ちるのでは？
- ・仕事をせずにテレビを見ているのではないのか？

- ・家族がいると仕事に集中できないのではないのか？

など、ネガティブなイメージを持つ

たれている方も多いのではないのでしょうか。

筆者は、コンピュータメーカーの正社員として、シニア・マネージャーの役職で7年間在宅勤務を経験しました。部下は同じく在宅勤務者の他に、東京本社と地方支店に点在していました。また、東京本社には協業する他社の出向社員も、私の管理下で仕事をしていました。このように上司の目が届かない環境下でも、チームは機能し結果を残してくれました。

在宅勤務には通勤勤務とは異なる考え方と手法があり、それができれば仕事は場所に関係なくきちんと進められます。その手法についての詳細は、第3回目以降で紹介します。

在宅勤務とは

企業勤めのほとんどの方は、会社に出社して勤務される労働形態が普通でしょう。私自身も、かつては毎日満員電車で揺られて通勤していました。夏のうだるような

暑い日や、雨の満員電車の憂鬱さはよく分かります。そんなとき、通勤しながら考えたものです。

「仕事は会社でしかできないのだろうか？」

「会社以外の場所で仕事をするにはどうしたらいいのだろうか？」

在宅勤務とは、「今まで会社で行っていた仕事を自宅でする」というイメージの方が多くかもしれませんが、

- ・身体に障害があり、会社に通勤することが難しい
- ・人とのコミュニケーションが苦手な対人恐怖症

など、会社という場所で働くことが困難な人は、自宅で仕事をするのが普通なのです。

現在、企業に勤めており毎日出勤して仕事をしている人にとっては、仕事をする場所を選択肢が増えたのですが、前述の通り、在宅勤務は決して特別な働き方ではないことをまず理解していただきたいと思います。

とはいえ、会社以外の場所で仕事をするのことに對して、不安がある方も多いことでしょう。連載第1回目は、まず、在宅勤務の基本的なことについてお話しさせていただきます。在宅勤務とは何かを正しく理解していただくことに重きを置きます。

在宅勤務の定義

「在宅勤務の定義」をするためには、その目的やルールなどを認識し、在宅勤務について多少理解してからの方がいいでしょう。

①在宅勤務の目的

在宅勤務の目的は、勤務形態を採用する企業側にあります。とはいえ、従業員にもその恩恵はあります。企業にとつての目的と従業員への恩恵が明確にならないと、在宅勤務は魅力あるべき労働形態といえません。業界や職種によって差異があるかと思いますが、企業の目的は大きく分けて次のようになるのではないかと考えます。

・働き方の多様性への対応

家庭の事情などにより毎日通勤することが難しい状況下に置かれた社員の選択肢として、また、働き方の選択肢が増えることで優秀な社員が会社に残る可能性もあります。会社以外の場所でも仕事ができることを望んでいるのは、今まで会社に通勤して働いていた人だけではありません。前記した通勤が困難な人や直接的な対人コミュニケーションが苦手な人など、働き方の多様性を目指す企業にとつて、新しい雇用形態が一番の目的になります。

・従業員満足度の向上 (ワークライフバランス)

通勤時間は住む場所によつて差異がありますが、往復でおおよそ1〜2時間。中には3時間以上の方もいることでしょう。その通勤時間を有効に利用し、本を読んだり勉強したりと「時間を無駄にしません」という方もいますが、電車通勤で必ず座れるとも限りませんし、落ち着いた場所でないとい

もできない方もいます。

その点、在宅勤務には通勤時間が存在しません。仕事以外の時間は、即プライベート時間です。通勤時間に充てていた時間を運動や子供の送り迎えに使え、疲れていれば起床時間を遅らせることも可能、このように、時間を有効利用することでワークライフバランスにもつながります。

・会社の資産・経費・時間を削減 (節約)する

会社の備品(机、書類棚、ロッカー、電話、文房具など物理的なもの)、場合によってはフロアを減らすことができます。そして、従業員の交通費を削減することができます。ネットを介して会議に参加することができるので、会議のために集まる時間と費用を節約することにもつながります。

・リスクを分散する

会社で大きな(自然)災害や事故に遭遇した際、同じ場所に従業員がいれば、多くの従業員が同じ

状況下に置かれることになりませんが、在宅勤務で従業員が分散していれば、被害に遭うケースを減らすことができるでしょう。

②従業員への恩恵

・自由になる時間が増える
前述の「従業員満足度の向上」にあるように、在宅勤務者は通勤時間を自由に使えます。

・ストレスの緩和
満員電車からの開放など、ストレスの緩和につながります。女性の痴漢遭遇確率も激減します。

・昼休みの使い方

昼休みにできることは広がります。仮眠（自宅のベッド）、趣味、家事などに使う。ペットで癒される、これもストレスの緩和につながります。

・外食が減る

食費の節約、また、自炊でカロリーコントロールをして健康的な食生活を心がけられます。

③在宅勤務のルール

・仕事の品質を落とさない

会社での仕事と在宅での仕事に差があつてはなりません。場所に関わらず、同じ品質の仕事が求められます。在宅の方が、仕事の品質が上がったという結果があれば在宅勤務の必然性が出てくることでしょう。

・期限（納期）を厳守する

これも仕事の品質ですが、あえて分けました。会社で仕事をしても期限を守れない方がいますが、「在宅なので…」という理由は通しません。

・服装

会社勤務でも普段からカジュアルスタイルが許されている業界や職種であれば、在宅勤務の服装は自由でいいでしょう。お客様への訪問が頻繁にある職種であれば、基本スーツを着用していた方が便利です。在宅勤務における企業の方針や規則、文化に則った服装が好ましいでしょう。

・会議中はマイクをオフにする

在宅勤務の場合、自宅内で仕事をする場所を確保する必要があります。自分の部屋や空いている部屋がある場合はいいのですが、リビングで仕事をする場合などは、ネット会議の際に室内の雑音をマイクが拾ってしまいます。

単に会社の利益追求だけではなく、従業員にとっても利点があることをご理解いただけましたでしょうか。在宅勤務を定義すれば、「働き方の多様性を推進する有効な手法であり、企業と従業員の架け橋となる経営戦略」ということになるでしょう。

在宅勤務の

メリット・デメリット

おおよそ在宅勤務についての理解ができてきたのではないでしょう。自分が考えていた在宅勤務とは少タイメージが違ったという方もいるかと思えます。さらに、そのイメージを明確にするために

在宅勤務のメリット・デメリットについて述べます

物事には、メリット・デメリットが付きものです。在宅勤務ではどうでしょうか？メリットは前項の「①在宅勤務の目的」「②従業員への恩恵」が該当しますので、ここではデメリットについて考えてみましょう。

●在宅勤務のデメリット

・会社の人との接触がなくなる
自らアクションしなければ、会社の誰とも話さないという日も珍しくありません。仕事には集中できますが、他者との接触が必要な場合は、進んでコンタクトを取るよう心掛けてください。

相手が目の前にいれば声を掛けていい状況を判断することができそうですが、在宅勤務者からは確認できません。いきなり電話するのも気が引けます。事前にメールやチャットなどで相手の状態を確認する配慮が必要です。

オフィス空間（通路、トイレ、

喫煙所など）で同僚と接触することもないので、気分転換に仕事以外の話をすることもありません。

・生活が単調になる

通勤がなくなるということは生活が単調になります。仕事の後にどこかに寄ることもなくなり、また、家庭によっては一日中家族と一緒にいるケースもあります（それが、良いか悪いかは家族の事情によりますが…）。

・仕事と生活の区別

通勤していれば、勤務後、会社を一步出ればその日の仕事は終わりという区切りができます。しかし、在宅勤務の場合は、それが無い環境下にあります。パソコンの電源を落とした時点で仕事は終わりですが、自宅の仕事机の上には、チェックが必要な書類の山が残っています。仕事が終わったという気にならない人もいるでしょう。

・運動不足になる

「通勤は運動ではない」という方

もいますが、在宅勤務者から見れば立派な運動です。常日頃から、自宅で運動したりジムに通ったりしている習慣がある方は別ですが、そうではないと運動不足に陥ります。

一見すると、デメリットの方が大きいように思えるのではないのでしょうか。しかし、きちんとモチベーションをコントロールすることによってメリットに変えることもできるので。

「生活が単調になる」…通勤に充てていた時間を使って、好きなことができませんので単調になることはありません。逆に、単調の方がいいという人にとってはメリットになります。お酒が苦手な人にとっては、気が進まない飲み会に行かなくてもよくなります。

「仕事と生活の区別」…割り切りが必要になります。仕事のデッドラインを決めて1日の仕事にけじめをつけるようにします。また、

書類は引き出しにしまい、目に入らないようにするのがいいです。

「運動不足になる」…会社に通勤しているころより健康に気を使えるようになりません。通勤に使っていた時間を使ってウォーキングやジョギングを始めると気分転換にもなります。

在宅勤務に向いている職種

そもそも在宅勤務が不可能な職種を考えてみましょう。

- ・工場のラインで、組み立て作業をする作業員
- ・店舗で、お客様の相手をする販売員
- ・運転手

工場作業など場所を特定される仕事や、決められた場所での対面サービス業は、在宅勤務は難しいと言わざるを得ないでしょう。それ以外の職種は、基本的に在宅勤務は可能だと考えて施策を考

えてみてはいかがでしょうか。業種や職種によって差異がありますが、在宅勤務を前提として考えることが大切です。最初から否定した状態では、良案は絶対に出てきません。

筆者がコンピューターメーカー在籍時の在宅勤務の職種としては、営業、SE、サポートがありました。会社にいなくても仕事が成立する独自の仕組みが色々ありました。それは、会社の仕事の仕方により変わってくると思います。自社ではどのような仕組みができるのかを、考えてみましょう。

「第1回 仕事は自宅で！在宅勤務のススめ」は、いかがでしたか。まずは、在宅勤務について理解していただけたかと思えます。在宅勤務は決して特別な働き方ではありません。働き方の多様性が求められる現代社会では、当たり前のようにつつあります。次回からは、在宅勤務を導入・提供する企業側の視点から、在宅勤務環境について述べます。